

November 2015

in the Saga Times - Ver.1



人間らしく働くための九州セミナーinさが
「働くルールをすべての学生・
労働者が身に付け活用しよう」

ブラック企業と戦う戦士



東島 浩幸という男

東島 浩幸 Hiroyuki-Higashijima

現地実行委員会委員長。

佐賀出身54歳、弁護士である。

いかなる悪と戦うこの男は、ブラック企業やブラックバイト、〇〇電力または悪の組織シヨッカーとも戦うことを運命として背負っているのである。

酒とその次に嫁をこよなく愛している。

～Message～

九州各地または全国各地からようこそ佐賀に！ このように盛大な会となったことについて、セミナーの現地実行委員会を代表して歓迎と感謝の気持ちを述べさせていただきます。

さて、ブラック企業社会を変えて人間らしく働けるようになるためには、法制度を変えていく運動も必要ですが、最低限の労働基準も守られていない職場等々で人間らしく働けるよう変えていく力を働く者自身がつけて行かなければなりません。そのためには、働く者や学生がワークルールを学び、使えるものにしていかなければなりません。

各地のワークルール教育の先進的実践やその教育の成果によって職場の改善につながった実践例などに学び、ブラック企業社会を変えていきましょう。

東島 浩幸

Mr.九州セミナー



田村 昭彦 Akihiko-Tamura

九州セミナー代表世話人会議長。九州社医研理事長。山口県出身。「楽しまなければセミナーじゃない」がモットー！ 昨年1日1万歩き減量に大成功。

佐賀の御意見番



愛野 浩生 Hiroo-Aino

実行委員会副実行委員長。佐賀県医療生活協同組合理事長、職業医師。和歌山県出身、佐賀大学医学部第1期生。愛車と孫を溺愛する54歳。潔癖症でもある。

九州セミナーの良心



稲富 公一 Koichi-Inadomi

現地実行委員会事務局長。佐賀県労連事務局長は多分7年目。数多い課題を要領よく受け流す術を持つ。サッカーが好きだがケガをした38歳。佐賀県出身。

九州セミナーinさが
現地実行委員会STAFF

九州セミナーinさが現地実行委員会 これまでの軌跡

第1回九州セミナー
1/21 現地実行委員会結成



#2現地実行委員会

●第2回現地実行委員会3/28
「過労死防止対策 推進法」制定
と今後の課題
講師 寺西 笑子さん
(全国過労死を考える家族の会会長)

第3回九州セミナー
現地実行委員会



#3現地実行委員会

●第3回現地実行委員会8/26
～学校・職場・地域で
労働法を学ぼう～
講師 遠藤 隆之さん
(熊本学園大学教授)

ブラック企業・ブラック
バイトアンケート活動に
取り組む！



アンケート活動

11/6アンケート活動
現地実行委員会5名が参加し西友佐賀店前にて直接対話を通じてアンケート活動を行った。配布活動も含めて約300通のアンケートを回収した。

九州セミナー in星生学園



#4 星生学園働く授業

働くルールを教えるということ

●第4回現地実行委員会 (10月27日)

「星生学園の授業報告、ブラック企業・バイトアンケートの状況レポート報告」

今回のセミナーのテーマは「働くルールをすべての学生・労働者が身につけ活用しよう」。プレ企画として9月7日に佐賀星生（ほっしょう）学園【学校法人星生学園】にて高校生50名を対象とした「働くルール」の授業を行いました。教師役は現地実行委員会の東島浩幸弁護士。事例方式で設問を出し、グループ討論を深めました。この授業の様子は九州セミナー初日のシンポジウムにて映像での紹介と報告が行われます。



11/12記者会見を行いました

現地実行委員会5名が参加しました。ブラック企業・バイトアンケートの取り組みや、星生学園での働く授業・九州セミナーinさがの開催予定について報告しました。

お知らせしたいこと

- 2日目の分科会会場は佐賀市文化会館ではございません。「星生学園」及び「アバンセ」での開催となっています。
- 2日目の分科会会場「星生学園」は『上履き』が必要です。現地でもスリッパを用意しますが、ホテルの部屋で使用したスリッパをご持参して頂ますようご協力お願いします。
- Saga Times第2号はシンポジウム終了後に配布予定とさせていただきます。インタビュー及び取材のご協力を是非×3お願いいたします。

in the Saga Times -Ver.2



人間らしく働くための九州セミナーin 佐賀

初日(28日)、開会式・記念講演特集

世話人会議長あいさつ 田村昭彦(九州社会医学研究所)

今回の企画は2年がかりとなる「働くルールを身につけ、活用する」です。労働者派遣法の改悪がすすむ中、非正規雇用が4割を超している。労働者の働き方の形態が違っただけでなく、労働者としての守られ方が全く違っている。この問題を命と健康の視点から考えたい。働く人の課題は多いが、セミナーでは課題を考え、仲間を作り、日常的に活動するきっかけにして欲しい。楽しくやるがモットーのセミナーですが、楽しくやるためには、他人の問題を我が事のように考え、気づきあうことが楽しさに結実する。セミナーを通じて実践した成果を来年持ち寄ってきて下さい。



基調講演

「学校で労働法・労働組合を学ぶ」

川村雅則氏(北海学園大学 教授)



《講演要旨》

過労自殺をした若者の遺族の話聞き、彼らを無防備なまま社会に送り出してはならないとの信念に基づき、実践研究と教育実践をおこなっている。

学生とともにおこなうタクシー労働者の調査では、規制緩和政策のおかしさを学び、そこでは健康を害した労働者にも直面するが、健康問題を狭い枠でとらえないことが重要。健康対策に押し込めると「俺の苦しさ」を否定することになり、その人の背景にある構造的な問題をとらえなければならない。調査は現場に近いところで企画して取り組むことに意義があり、まとめをすることで次のステップになる。問題がお互いに共有されなければならない。

学生を社会に送り出すために、学んだ問題の本質を教え、どうやったら解決できるかを理解するために、労働法の条文を教えるだけではなく、労働組合を学ぶことが必要だ。無防備なまま過労死職場に送らないため、若者に剣を贈る「団結剣」学習をおこなっている。現在のキャリア教育や就職活動は「自己責任」とどめたものが多い。高校においても労働組合を伝えていくことを、憲法に基づく要請であることから取り組んでほしい。学校「が」ではなく、学校「で」。組合ばなれを気にする以前に、組合に出会ってない人が多い。出会う機会を作ろう。

民主主義が問われているのは安保だけではない。職場、教室で民主主義が実践されているかが問われている。教えるあなたが労働組合してますか？豊かな実践がなければ生徒に伝わらない。問題の発見と可視化が重要。労働者の意識などを含めて現場調査をなくして政策も運動もない。

「講演がおもしろかった」で終わってはいけない。500人による明日からの実践。一步踏み出す実践になってこそこのセミナーだ。

in the

Saga Times -Ver.3



働くために、学ぶ

シンポジウム 労働法・労働安全衛生法を学校で、地域で学び、活用しよう



大会シンポジウムでは、佐賀ブラック対策委員会の古賀誠氏が現地佐賀の若者からの報告として、セミナー実行委員会と一緒に取り組んだ調査活動の結果報告をもとに、聞き取りや対話活動を通じて得た体験を語りました。千鳥橋病院の医療ソーシャルワーカーの伊規須朋子さんは、医療機関における無料低額診療事業や経済的事由による手遅れ死亡例調査から見た社会保障教育の重要性を報告。北九州労連代表幹事・福岡県建設労働組合北九州支部の平安将隆さんは、地域の未組織労働者も含めた労働安全衛生教育「ROUANN塾」の活動について。長崎高教組の今泉宏さんは、福山雅治の「クスノキ」を独唱して会場の注目を集めます。現在福山氏が卒業した長崎工業高校に勤める今泉さんは、高校での労働法の学習の意義と実践例の報告。愛知学泉大学教授の久永直見さんは学校教育での労働安全衛生教育の重要性について報告しました。

報告を受けたパネラーへの質問では、直接のやり取りではなくアンケート形式による回答と討論形式となりました。「生活に行き詰った人への支援が必要だと思うが、本人が生活保護を受けたいと思っていない」「学習指導要領に労働安全衛生が書かれているが実際のところはどうなのか」などの質問が出ました。様々な分野からの発言や問題提起を受けて今後の働くルール学習の方向性についても学習する機会となりました。

最後に、現地実行委員会による「働くルール」授業実践の報告をおこないました。



佐賀の夜会はおわらない



さが現地実行委員会による「ムツゴロどん」



佐賀の交流会は約300名の参加で盛大に行われました。まず日本酒での乾杯あと代表世話人会門馬さんの挨拶に始まり、現地さが実行委員会による「ムツゴロどん」を披露し、会場盛り上げることができました。

前回開催の鹿児島、次回開催予定の沖縄、福岡、北九州など各地代表の挨拶を行いました。

最後は今回開催のさが現地実行委員会から挨拶と2日目への決表表明を行い交流会の終焉をむかえました。



コメント&ツイート



西日本石炭じん肺長崎請求団のみなさん。井上義美さん(81歳)は18歳から55歳まで炭鉱で働いた。「坑内は空気が悪く、作業が終わると痰がたくさん出た」



来年は頑張ります！是非来てね
(沖縄民医連 新垣&照屋)



韓国から来ました金です。韓国の代行運転労働者の健康について報告します。



鹿児島医療生協労組の富島隆治さんは初参加。「講演とシンポは自分の立場と合致するものでした」



実行委員のみなさん 踊れないから被ってみんな疲れ様でした！ました(ムツゴロウ)(佐賀 愛野)



ケイスケ結婚おめでとう~!!
(北九州 ウシジマ)

二日目 特別講座・テーマ別分科会



第7・8分科会合同、教育講演「職場のリスクアセスメント、リスクマネジメント」(講師・近藤 雄二さん、天理大学)では、労働安全衛生の成立過程や、リスクマネジメントのコツとして改善事項の優先度の決め方について解説。



教育講演「学校におけるアスベストへの対策ポイント」で久永氏は学校におけるアスベスト調査分析し危険性を示した。調査対象は学生寮、美術実習棟などで石吹付け材中のアスベスト含有量をX線解析した。また、学校の教材や材料におけるアスベストの危険性にも注目しており、ガラス管の石綿ひも、乾燥機内の石綿や園芸用のひる石など、またはインターネットの教材販売での蛇紋岩の例をあげアスベストへ環境整備の必要性を論じた。

2016年11月12日、13日九州セミナーin沖縄開催予定
課題と成果を持ち寄って参加しましょう